

# NILE

Nile's

DESIGNING FOR HIGH LIFE

No.240 February,2017

ナイルスナイル



グラマーテーブルの誕生

English, the lingua franca of today,  
 becomes an ultimately crucial & tactile extension of literacy.  
 The better English education prospers,  
 the better a country prospers.  
 by Yasuhiro Fujikawa



撮影協力/東京国立近代美術館工芸館

藤川恭宏氏の英語との出会いは、小学校3、4年生の頃にさかのぼる。高校英語の教員免許を取り立ての親戚の叔父から、アルファベットや「This is a pen.」のような簡単な文章を教えてもらったのが最初だ。「楽しくて、すぐに英語が大好きになった」と振り返る氏だが、この時、英語とともに歩むという氏の運命の歯車が動き出した。「中学生になって、両親から勧められて、英語塾に通うようになり、デキ過ぎて目立っていました。中学校の英語顧問をされていたオランダ人教師の方に能力を認められ、英語の授業とは別に個人レッスンもしていただきました。高校時代の全国模試では常にトップでした。それで学校の先生がAFSで留学する機会を与えてくれたのですが、『まだ先にくらでも機会はあるだろう』と両親から反対されましてね。残念な思いをしたこともあって、二人の娘には高校の時にアメリカ留学をさせました」

そんな藤川氏は慶應義塾大学に入学するや、もう「教える側」になり、「1年生の時から早慶、東大の超難関名門校を目指す中・高生を教えていた」そうだった。その後、国際交流協会などで通訳の仕事でも経験を重ねた。「ただ通訳の仕事というのはその場限りで、残るものが少ない。その点、英語を教えることには、例えば生徒の英語力が飛躍的に上がるとか、英語音痴だった教え子が英語を駆使して世界を舞台に活躍するなど、社会貢献につながる『教育』としての有形無形の産物があります」。

## グラマーテーブルの誕生

### LIBERTY ENGLISH ACADEMY

リバティー イングリッシュ アカデミーの代表、藤川恭宏氏は世界で唯一無二の英語教授法「藤川メソッドグラマーテーブル」を編み出し、英語教育の常識を覆してみせた。その藤川氏はどんな人物なのか。ライフヒストリーを追いながら、いかにして「グラマーテーブル」に行き着いたのか。

Photo TONY TANIUCHI Text Junko Chiba



リバティー イングリッシュ アカデミーのグラマーテーブルの授業で使っているテキスト。初級・中級・上級の3冊。近日出版予定である。



「藤川メソッドグラマーテーブル」の誕生に大きくかかわったエドウィン・O・ライシャワー氏。ハーバード大学教授として日本研究に従事した。



慶應義塾大学法学部政治学科では内山正熊研究会に所属。三田キャンパス旧図書館前で、研究会の先生と同級生らと。藤川氏は前列左から3人目。

私はそこに価値を見いだしたのです。しかし当時はまだ、英語教師としての選択肢はなく、夢は別のところがありました。将来はキャリア外交官としてアメリカ大使になりたかった。そのための学中は国際政治や外交を始め経済、法学、歴史などオールラウンドな勉強をしていました」

その勉強の過程で出合ったのが、エドウィン・O・ライシャワーの数々の著書である。これを藤川氏は「必然の出会いだった」と言っている。

「ライシャワー氏は、ケネディ政権下で日本大使を務めた後、ハーバード大学教授として日本および日本人の研究に従事しました。著書には『THE JAPANESE JAPAN PAST & PRESENT』などがあります。中でも印象的だったのが『THE JAPANESE』に特別に設けられた「LANGUAGE」という章に書かれていたこと。『日本人の英語力は惨めなほど低い』ということを冷徹に分析し、『世界経済を牽引していく国として、国際語である英語力を上げることは、焦眉の急である』と警鐘を発していました。た

だ『ではどうすればよいのか』という答えがない。それで『ライシャワー氏でさえ答えを出さなかった問題を解決し、それを広めていくことこそが私に課せられた使命であり、日本でコペルニクスのような英語学習メソッドを確立する』と決意しました。かねて私は、優秀な日本人にして英語力が上がらないのは学習能力の低さからではなく、教える側にこそ問題があると確信していたのです」

そして藤川氏は、「日本の英語教育を根底から変える」ことを目標に、従来の常識を覆す方法を考案し続けた。結果、英語のネットワークの中心に「ERRB=language ENGLISH」という発想を据えて体系化した「藤川メソッドグラマーテーブル」のプロトタイプが完成。32歳で30GSことだ。

「その後もイノベーションを重ね、エリート英語教育に専心する一方で、コロンビア大学の大学院に留学しました。英語教授法の分野で世界一とも称されるこの大学院で、藤川メソッドの独自性、絶対的優位性を確認したかったのです。教授に見せ

たところ『どこにもないものだ。すばらしい』と感嘆され、より自信が深まりました」

藤川メソッドは言うならば、「天動説から地動説への大転換」を図った英語教育法だ。13年前にリバティー イングリッシュ アカデミーを設立し、以来、「完璧な英語力が身につく」という評判が口コミなどで広がり、生徒数は増加の一途である。「当校で学んだ生徒さんは通常、3カ月から半年、遅くとも1年間でアイビリーガー（ハーバード、コロンビアなど）やオックスブリッジアン（オックスフォード、ケンブリッジ大）と同等の英語力が身につきます。TOEFL100、TOEIC900を突破することは当然です」

藤川氏は2015年に「プロジェクト2025」を旗揚げした。2025年までに日本のトップ5%のエリートの英語力を世界一にする！という壮大な企画。さらに「完璧な英語力」を身につけた100万人のグローバルエリートを創出することをライフィッションとする。今後の氏の活躍に期待されたし。

## 受験英語に染まらぬうちに “完璧な英語力”の楔を打つ

### LIBERTY ENGLISH ACADEMY

キャスターの内田恭子氏はいわゆる「帰国子女」。  
小学校5年生から高校2年生までをアメリカ・シカゴで暮らした。  
もちろん英語はペラペラだが、「いつかもう一度留学したい」という思いを秘めている。  
と同時に、二児の母として「英語を身につけ、世界に羽ばたいて欲しい」という願いも。  
9月に「ヤングエリートコース」を新設する、  
リバティー イングリッシュ アカデミーの藤川恭宏氏との対談に熱が入る。

Photo Satoru Seki Text Junko Chiba  
Hair&Make Takeyuki Sato(HAPPS) Stylist Chisato Goto(CAB)

リバティー イングリッシュ アカデミー代表  
藤川恭宏

キャスター  
内田恭子



ふじかわ・やすひる 慶應義塾大学法学部政治学科にて国際関係論を専攻。その後5年間、同大学で外交の研究に従事。エドウィン・O・ライシャワーに邂逅し、究極の英語学習メソッド「藤川メソッドグラマーテーブル」を考案。コロンビア大学大学院でTESOLを取得。2004年から現職。

**藤川** 内田さんは何歳の時にアメリカへいらしたのですか？

**内田** 11歳です。現地の学校に通い、高3になる直前に帰国しました。

**藤川** 渡米前に英語の勉強は？

**内田** 全くしてなかったです。ワンからテンまで数えることも、アルファベットのAからZも言えない状態でした。両親は父の仕事の都合で海外生活が長かったので、非常にホジティブというか、「現地校に入れば自然に覚えるでしょ」とみたいな。今思つと、やや乱暴ですよ。

**藤川** でも、いい経験をされたと思いますよ。クリティカルエイジの間

題もあるので目でなく耳から直接学ぶのは早ければ早いほうがいい。

**内田** 英語ができないことに加え、授業のやり方も日本とは全然違うので、最初の1週間くらいは怖くて首も動かさず、じっと前を向いて座っているだけでした。ただ日本人がすごく少なくて珍しがられて、皆が寄って来てくれました。いまだに覚えているのは、最初の休み時間に「come」と手招きされた時のことです。空を見上げると飛行機が飛んでいて、「plane, plane! Say plane!」って。そんなふうにして単語を覚えて、1年くらいで日常的な

会話は、普通にできるようになりました。

**藤川** それはすばらしい！ でもどうしても文法が後回しになってしましますよね。

**内田** そうなんです。文法では帰国してから苦労しました。そもそも文法で使われる日本語名がわからなくて、過去完了形と言われても「何ですか？」という感じ。それにフレーズとして覚えていたので、例えば「not only but also」を「ただでなくも」と訳さず、意識して点をもらえなかったりしました。「英語だけはできる」と自信があったの

に、高校の試験を受けたらほぼ赤点でした(笑)。

**藤川** なるほど。うちの生徒さんには帰国子女の方も多く、例えば12歳からニューヨークに行かれていての方がいました。ご両親がコロンビア大学とかのアイビリーリーグ校に進学させたいということで、留学させていましたが、高2でTOEFLが120点中82点止まり。ペラペラだし書けるのに点が取れない。それでリバイターに1週間通ってもらい、英語の核となるVERB中心の文法構造をたき込みつつスピーキング、ライティング力を改善し、アカデミックな語彙を使うように教えたところ、106点まで上がりました。ESLの先生に「日本で替え玉受験したんじゃないかと疑われるくらいの伸び。引き続きアメリカの大学進学に必要なSATという共通試験対策で来られたのですが、2400点中1500点台から2200点に伸びたので、疑いは晴れました(笑)。

**内田** すばらしい！

**藤川** 日本人は英語音痴と言われることがありますが、それは間違っています。当校では皆さんが英語の核心を

しっかり身につけて、「完璧な英語力」をマスターしていますからね。

**内田** 確かにコアな部分が抜けていたら、ある程度はいけても、そこから先にいけないですね。

**藤川** 私はアイビリーガーやオックスブリッジアンにも引けを取らない、アカデミックな英語を教えてください。生徒の皆さんが向こうのインテリが使つると同じレベルに達して、グローバル社会で縦横無尽に活躍してほしいのです。

**内田** 私も息子2人には高度な英語力をつけてほしくて、「ママもア

メリカの学校で勉強したから、あなたたちにも行ってほしいな」と少しずつ刷り込みをしています。でも上の子が小学校に上がったばかり。英語塾にも「楽しい」といって通っていますが、今は日本語をしっかりと学んでほしいという気持ちが強いんですね。日本人としてのアイデンティティーを確立することも含めて、今が大事な時期だと思っています。私自身、英語を話す時と日本語を話す時で人格が変わるとか、自分はアメリカ人でも日本人でもないと思ったりする時期があったので、子どもた

ちには日本人としての誇りをもって世界に出て行ってほしい。

**藤川** 9月から新しく8〜14歳の子たちを対象に「ヤングエリートコース」を開講します。超難関名門中学校、大学に入学する前に、すでに「完璧な英語力」を身につけることができたら、どんなにすばらしいことでしょうか?! 「完璧な英語力」を身につけることが至難であるからこそ、それはグローバルエリートとしてのパスポートを手に入れたも同然ですからね。

**内田** そつですね。どんなものを？

**藤川** これまで提供してきた藤川メソッドグラマーテーブルをやさしく教えるプログラムです。日本の受験英語に染まる前に、また留学してから英語力不足の壁にぶち当たらないように、3年計画で「完璧な英語力」を身につけるプログラムです。

**内田** 実は息子の留学時に、あわよくば私も留学がてらついて行きたいなど、アメリカの大学院で学びたいなど、狙ってるんです。

**藤川** いいですね、母子留学。そのニュースを楽しみにしています。

**内田** まだすーっと先ですけれどね。



うちだ・きょうこ 1976年ドイツ・デュッセルドルフ生まれ。小学校5年生の時にアメリカ・シカゴへ。高校2年生の終わりに神奈川県立外語短期大学付属高校に編入。慶應義塾大学商学部卒業後、1999年にフジテレビに入社。2006年に退職し結婚。現在は育児と仕事の両立に奮闘する2児の母である。

衣装協力：ワンピース 429,840円、ベルト 91,800円、サンダル 181,440円(ブルネロ クチネリ/ブルネロクチネリ ジャパン TEL03-5276-8300)、ピアス 464,400円(ミニ/ミニ GINZA SIX店 TEL0120-624-377)、プレスレット 84,240円(シェイスピー/ザ・ショーケース GINZA SIX店 TEL0120-624-377)

# グローバルエリートを育成する“学び舎”

## LIBERTY ENGLISH ACADEMY

海外の名門大学・大学院で学ぶ。それはキャリアアップを目指す上で重要なポイントである。専門知識を増やし、かつ深めていくためには、相応のバックグラウンドが必要だからだ。そこに立ちちはだかるのは「英語の壁」——。リバティ イングリッシュ アカデミーに学び見事にその壁を突破した一人の女性を紹介しよう。東京・初台にある新国立劇場で劇場運営に携わる齊藤千絵氏である。

Photo TONY TANIUCHI Text Junko Chiba



### 齊藤千絵

さいとう・ちえ 1984年富山県生まれ。慶應大学文学部西洋史学専攻。卒業後、新国立劇場の職員に。キャリアアップのため、2013年9月からニューヨーク大学大学院で芸術経営論を学び、2015年3月にMBAを取得。帰国後、新国立劇場に復職し、総務部で活躍中。

海外の大学・大学院に入学するには、英語をどれだけ使えるかを判定するTOEFL (iBT)で高得点を取得する必要がある。それが第一の壁。さらに待ち受ける第二の壁は、その英語力が講義についていけるレベルに達していること。TOEFLの高得点が即、大学・大学院の授業をストレスなく受講できる能力を担保するとは限らないからだ。日本にいるうちに、この「第二の壁」をも難なく突破できるだけの英語力をも身につけていることが望ましい。

「問題は志望校——ニューヨーク大学の大学院に入学するのに必要なTOEFL100点の壁を突破することでした。いくつかのTOEFL専門塾に通ったものの、なかなか点数が上がらない。今思えば、どの塾もテスト攻略法が中心で、テンプレート暗記する勉強ばかりだったからでしょう。80点くらいでウロウロしていました。その20点のギャップをどうやって埋めようかと、ウェブサイトでいろいろ探していた時に、藤川先生のアカデミーに出会いました。『完璧な英語が身につく』というフレーズに引かれて、もうここしかないと思ったんです。彼女の話を聞いて藤川氏は語る。



リバティ イングリッシュ アカデミー代表  
**藤川 恭宏**  
ふじかわ・やすひろ 慶応義塾大学法学部政治学科にて国際関係論を専攻。その後5年間、同大学で外交の研究に従事。エドウィン・O.ライシャワーに邂逅し、究極の英語学習メソッドグラマーテーブルを考案。コロンビア大学大学院でTESOLを専攻。2004年から現職。

「TOEFL攻略法というのは、受験英語の延長線上にあるような勉強に終始するものです。ただのスキルに過ぎず、点数を上げることは不可能ではないが、英語力そのものを底上げすることはできない。齊藤さんの英語力も、だから伸びなかった。特にスピーキングとライティングは15〜16点止まり。もともと英語はできる方でしたので、『藤川メソッドグラマーテーブル』を教えたら、みるみるうちに得点が上がりました。半年と待たずに100点を越えるまでにスコアアップしたのです」

齊藤氏はそのグラマーテーブルを一目見た瞬間、「ああ、そだったのか」と胸に落ちた。

「グラマーテーブルは、完成されたセンテンスを分解して体系立て、それをシンプルにロジカルに表現していました。藤川先生に『これが英語

ですよ』と言われて、今まで勉強してきた英語は何だったんだらう。このグラマーテーブルを自分の体に入れて、実際に使えるようになるまでには少し時間がかかるので、ぜひともこれを習得したいと気持ちがいっぱい覚えています」

また齊藤氏は、留学に際してフルブライトの奨学金を受けることにも成功した。この試験は非常に難しい。齊藤氏によると、「自分の目指す分野に詳しい10人ほどの面接官の前で、ゴールとそれを達成するための研究計画を語り、インタビュアーを受けろ」というものだ。その状況を想像しただけで腰が引けそうだが、彼女はマンツーマンで集中的にインタビュアーを受け付けて乗っ切った。「絶対大丈夫」という藤川氏の言葉が強く背中を押してくれたという。フルブライトは経済面で強力なサポートになるので、氏は生徒たち

に受験を勧めている。

さて、2013年に見事、志望校に合格した齊藤氏は、2年間の大学院生活を満喫した。「英語力のディアドバンテージがない分、膨大な文献のリーディングやニューヨークの劇場関係者へのインタビュアー等に時間を割くことができた」そうだ。一昨年帰国するとすぐに仕事に復帰し、活躍の幅を広げている。ニューヨークという舞台芸術の本場に気軽に連絡できる知人がいることで、「自分のカードが増えた」という実感もある。

藤川氏によると「TOEFLで高得点を出しても、大学・大学院の授業についていけない人が相当数いる」とのこと。「もっと早くこのメソッドに出会いたかった」という

のが共通のコメントだ。齊藤氏の例は、藤川メソッドが海外留学に必要な英語力を凌駕するものであることの証明とも言える。

「TOEFLで高得点を出しても、大学・大学院の授業についていけない人が相当数いる」とのこと。「もっと早くこのメソッドに出会いたかった」という

公開に踏み切る心積もりだ。

# 平

成27年度から国家公務員採用試験に、外部英語試験が活用されていることを存じだろうか。アカデミックな英語能力を備えていることが望ましいからだが、特筆すべきは、この試験にTOEFLが含まれていること。留学に必要な試験という認識だったので、意外だった。しかも、ここ数年はアジアの国別ランキングで日本は、30カ国中27位という低いランクにある。

「TOEFLを導入したことは、とてもいいこと」と、エリート英語教育のエキスパート、リバティイングリッシュアカデミーの藤川恭宏代表は言う。英語教育を模索し続けている日本に、荒療治ともいえるTOEFLの導入は好機というわけだ。

藤川氏は、日本人の英語力を世界一に！という「プロジェクト2025」を掲げ、新たな試みをスタートさせた。これまで門外不出だった「藤川メソッド/グラマーテーブル」の出版も予定されている。このメソッドは、世界を動かすグローバルエリートが身につけるべき完璧な英語。を簡潔かつ完璧に体系化したもの。確立してから20年以上にわたり、英語試験のスコアを高いレベルにまで伸ばし輝かしい実績を残している。

「いわゆる、日本人英語。には様々な間違いがあります。受験に出ないことを理由に、重要な部分が軽く扱われていたり重要性自体がわかっていない為まったく教えられていなかったりというのが、日本の英語教育

の実態です。そのギャップを正すのに、有効なのがこのメソッドです」

どんなに英語力に自信のある人でも、足りない部分はほとんど同じ。「いまままで経験したことがない考え方」とは最近東大の大学院に合格した生徒の言葉だが、論理的に解説するため、きちんと英語に向き合い学習を進めてきた人、英語に苦手意識を持っていた人ほど、ぐんぐん伸びて、完璧な英語を手に入れる。

「最速で完璧にマスターできるように、毎回の授業も工夫しています。国内の難関校受験や留学、帰国子女受験、ビジネスなど目指すゴールはさまざまですが、早いと1週間くらいでゴールに到達される方もいらっしゃいます。また、初めから学び直したいという方や英語教師向けの講座も用意しており、教育環境の根本的な改善にも貢献したいと思っています」

TOEFLには、1000点の壁があり、それをスムーズに越えることができるのがこのメソッドの真骨頂。「リーダー的立場を目指すなら英語力は必須。グローバルエリートとして活躍するためには、英語を完璧にマスターすることは急務です。このメソッドは近い将来、国際標準になるという確信があります。多くの方に知っていただくことを目的に、いままでは違うアプローチを進めているところなんです」。藤川氏の固い決意に、日本の明るい未来を予感した。

## 完璧な英語力はもはや急務 リバティ イングリッシュ アカデミー

エリート英語教育にたずさわって30年以上。自身が開発したメソッドで、TOEFL、TOEICなどのスコアを圧倒的に引き上げ多くのグローバルエリートを輩出してきたリバティ イングリッシュ アカデミーの藤川恭宏氏。「ハーバードやコロンビア大学などのエリートが身につけている英語」を日本のスタンダードにするべく立ち上がった。

Photo Satoru Seki Text Mayumi Sakamoto  
Hair & Make up Emi, Tomo (pams professional)



リバティ イングリッシュ アカデミー  
代表

**藤川 恭宏**  
ふじかわ やすひろ

慶應義塾大学法学部政治学科にて国際関係論、外交を専攻。奇跡を生む究極の英語教授法『藤川メソッド/グラマーテーブル』を考案。コロンビア大学大学院にてTESOLを専攻し、同メソッドの普遍性、実効性を確信。Liberty English Academyを開校し、20年以上エリート英語教育に従事。

「Welcome to the Perfect World of English.  
Now you are the Elite.  
Today LIBERTY, tomorrow the GLOBAL WORLD!」

藤川 永峰さんは英語で仕事を？  
永峰 はい。私もは約30年前に開業して以来、日本に進出する外資系企業を対象に英語による税務・会計サービスを提供してきました。今も海外の弁護士や会計士と世界中でミーティングを重ねています。英語は必須のツールですね。

藤川 英語が世界の公用語である度合がますます増してきたと思います。がその実感はありますか？

永峰 あります。ここ数年でヨーロッパの人たちが非常に英語を話すようになりました。EUになつてヨーロッパ域内の交流が加速されたこともあるでしょう。アジアも同じ。ミーティングなども英語でないと話が進まないくらいです。日本人だけがいつまで経っても英語が苦手、ガラパゴス化している印象です。藤川 日本は本当に遅れています。根本的な問題は、英語教育にあると思います。英語教師ですら、英語をしゃべれないのですから。

永峰 それこそ藤川先生はその日本の英語教育にメスを入れられた。「藤川メソッドグラマーテーブル」は独自に開発されたものですか？

藤川 そうです。英語の根本である文法の勉強が足らな過ぎると思い、それまでの教え方とは全く異なる視点から体系化された文法の骨格をつくり、それをしっかり身につけてもらう。そうすれば正確に文脈がつかめます。永峰さんは無意識のうちに会得してらっしゃるかもしれませんが、永峰 いやいや……文法を意識したことはほとんどないかな。でも確か

に、単語がわからなくても文脈でつかまえられる。文法というより構造で捉えていますね。

藤川 そこなんです。例えば日本の教育は「読解」の名の下に、難文解読のよなものに力を入れていきます。これは単なる逐語訳であって、読解ではない。英語脳、つまり英米人の文法が頭に入っていないから、逐語訳に頼らざるをえないわけです。永峰 よく、「日本人は読み書きはできるが、話す・聞くがダメだ」と言われますが、話す・聞くができない人が、いい文章は書けないと思えます。英語の基本的な構造がわかっているれば、そこをクリアできるはず。藤川 そう、日本人は優秀ですから、英語の構造を教え込めば、すぐに英語ができるようになるはず。永峰 藤川メソッドは他の言語にも応用できそうな感じがしますが、藤川 ヨーロッパの言葉なら特に応用可能でしょう。実際、京都大学の大学院でフランス語を勉強している教え子が実践しています。永峰さんはどちらに留学されました？

永峰 ペンシルベニア大学の大学院ウオートンスクールです。世界どこでも通用する資格がほしかったことに加えて、会計士としてMBAを持っていると個人の能力の差別化になると思い挑戦しました。藤川 なるほど。留学して良かったと思うことは何ですか？

永峰 世界の見方が変わったことでしょうか。あとビジネスにおいては、MBAによってある意味、自分自身をID化できたところが大きい。世

## 完璧な「英語脳」が日本の未来をつくる

究極の英語教育法「藤川メソッドグラマーテーブル」を開発した藤川恭宏氏と、英語のコミュニケーション力を武器とする税務・会計のプロ集団、永峰・三島会計事務所の代表パートナー、永峰潤氏。二人の英語の精鋭に「日本人の英語力」をテーマに語ってもらった。

界の人たちに知的レベルを認められるということでしょうか。

藤川 自分の存在性を示すことができるということですね。私は生徒たちに「できるだけトップランクの難関名門校を目指しなさい」と指導していますが、それも永峰さんのおっしゃるメリットを考えてのことです。

永峰 それはいい。いい学校には優秀な人が集まりますから、たとえその時代だけの友達であっても非常に刺激的です。欧米のリーダーは常に自分のブランド化を考えて大学院で学んでいます。日本人もその辺を強く意識するべきでしょう。ただ最近、MBAを目指す人が減っているとか。今のところは英語がしゃべれなくても何とかありますが、このままだとやがて世界から公断されてしまつて危惧しています。

藤川 残念で危惧すべき現象です。だからこそ日本人の英語に対する苦手を意識を払拭しなくては。私は今後も最短で英語脳をつくる教育に力を入れていきたい。国際社会で活躍する日本人が増えることを願っています。永峰 日本人が「内向き志向」を打破するためには、やはり英語教育が要ですね。藤川メソッドがその原動力になることを期待しています。

藤川 がんばります。いずれハワイやニューヨークを拠点に、世界に向けて仕事をしたい思いも。海外投資の観点から投資価値はありますか？永峰 ハワイはいい。私の専門分野ですから、相談に乗りますよ。藤川 ありがとうございます。

永峰・三島会計事務所 代表パートナー

**永峰潤** (公認会計士・税理士)

ながみね・じゅん 東京大学文学部西洋史学科卒業、米ペンシルベニア大学ウオートンスクール卒業(MBA)。等松・青木監査法人(現・監査法人トーマツ)、バンカース・トラスト銀行(現・ドイツ銀行)企業金融部を経て、1989年に永峰公認会計士事務所を設立。2008年より現職。

リバティ-イングリッシュアカデミー代表

**藤川恭宏**

ふじかわ・やすひる 慶應義塾大学法学部政治学科にて国際関係論を専攻。その後5年間、同大学で外交の研究に従事。エドウィン・O・ライシャワーに邂逅し、究極の英語学習メソッド「藤川メソッドグラマーテーブル」を考案。コロンビア大学大学院でTESOLを取得。2004年から現職。

藤川 志の春さんは子供の頃にアメリカにいらしたと聞いています。  
志の春 8歳から3年間ニューヨークについて現地の小学校に通いました。

藤川 耳から英語を覚えたのかな。  
志の春 そうですね。例えばテニス教室でやたら「ベンジヨーンズ」って言葉が耳に入っって、最初は「便所？」って感じていたが、後で「Bend your knees」だとわかったり。そういうことを積み上げて、英語を覚えました。

藤川 それでいったん帰国して日本の高校に学び、大学でまた留学を目指された。どうしてですか？  
志の春 大学受験を前にして学部を決められなくて、高校のアメリカ人の先生に相談したら、「じゃあ、アメリカに行くといい。3年生で専攻を決めればいから」と勧められました。それは自由でいいな。

藤川 私も高校を出て直で海外の大学に進むのはいいと思っっています。多感な年頃で異文化の吸収が速いし、もちろん英語力もぐんと伸びます。志の春さんはどんなふうな勉強を？  
志の春 そんなに「リコリヤびんく」でも単語は徹底的にやりました。辞書を食べるくらいの勢いで。SAT（米国の大学進学希望者を対象とした共通試験）が難しかったですね。ただ私の場合、中高と帰国子女のためにアメリカ人の先生がアメリカの教科書で英語の授業をやってくれたので、塾には通わず、アメリカから参考書を取り寄せて独習しました。

## 英語と落語の異なる関係

### LIBERTY ENGLISH ACADEMY

究極の英語教育法「グラマーテーブル」を開発した藤川恭宏氏。今回の対談のお相手は、米国のイェール大学に留学した経験を持ち、古典、新作に加えて英語落語にも挑む異色の落語家、立川志の春氏だ。彼の英語力に乗って、落語が海を越える。

Photo Satoru Seki Text Junko Chiba



リパティアー イングリッシュ アカデミー代表

### 藤川恭宏

ふじかわ・やすひる 慶応義塾大学法学部政治学科にて国際関係論を専攻。その後5年間、同大学で外交の研究に従事。エドウィン・Q.ライシャワーに邂逅し、究極の英語学習メソッドグラマーテーブルを考案。コロンビア大学大学院でTESOLを専攻。2004年から現職。

落語家

### 立川志の春

たてかわ・しのはる 1976年大阪生まれの千葉県柏市育ち。幼少時と大学時代を合わせて7年間を米国で過ごす。イェール大学卒業後、三井物産で3年半の商社マンを経て、2002年に立川志の輔に入門。2011年には二つ目昇進。古典落語、新作落語、英語落語を演じる。

た。実は日本の英語の授業は受けたことがないんですね。

藤川 それはラッキーでしたね。

志の春 え、そうですか？

藤川 日本人英語を引きすると、英語脳をつくるのに時間がかかります。

志の春 でも私、文法的なことがちゃんと説明できないんです。それだけに先生の「グラマー」で英語の本質をつかむ」という教授法には非常に興味があります。

藤川 日本の英語教育では、将棋の駒を一つずつ並べるように知識をバラバラと詰め込んでいくスタイルです。それから、英語の核の部分がすっぽり抜けてしまふ。だから私は生徒たちに「今までの知識はすべて忘れてください」と言っています。その上でパープを中心とする英語の構造を叩き込み、英語を体感させる。志の春さんは意識していないかもしれませんが、この英語の体感はずでつかまれてはいるはずですよ。

志の春 へえ……先生の授業を聞いたら、「そうだったのか」とパーンと文法が入ってくるかもしれないですね。

藤川 アメリカの大学は日本と違って、勉強が大変ですよ？

志の春 成績が就職に響くので、皆ガリガリやります。その意味では、挫折まみれの灰色の学生生活……。特に論理力を要するディベートやディスカッションは苦勞しました。

藤川 ところで落語との出会いは？  
志の春 20歳の時です。散歩の折に偶然、志の輔師匠が落語をやっていた。外国人の方の反応はどうですか？

志の春 けっこういます。例えば「芝浜」のような夫婦の絆を描いた噺は難しいかなと思いましたが、すごく反応がいい。シンガポールではお客さんが大泣き、大笑いしてくれて、移住したくなるくらいでした。

藤川 それは意外ですね。英語をどう落語風につくり演じるのですか？  
志の春 発音はネイティブに寄せて、リズムは日本語を維持してやっています。あと、江戸弁みたいなのはきつめの日本語なまりにするとか。難しいのは日本特有の文化が絡む演題です。例えば吉原好きが高じて自宅の2階に吉原をつくった旦那の噺

は、吉原がどんな場所、そこに単なる娼婦ではなくて最高レベルの文化・教養を身につけた花魁がいて、といったことは少しお勉強してもらわないと理解できませんからね。

藤川 なるほど。英語落語には、そういった微妙なニュアンスも含めた豊かな日本文化を伝え広げていく可能性があるように思います。アメリカで演じたことはあるんですか？  
志の春 今年の秋に初めて、ヒュー

ストンでやる予定です。夢はブロードウェイの舞台に立つこと。

藤川 私は国際社会で活躍する日本



# 立川志の春の英語で落語

立川流の「俊英」といわれる立川志の春さんは、リパティアー イングリッシュ アカデミーの藤川代表との対談でおわかりのように「英語脳」を持つ、本物の英語を操ることができる落語家なのである。外国人には間違いなくウケるという古典落語「TENSHIKI (転失気)」を特別に一席伺おう。

## TENSHIKI

This is a story about an old temple, where there was an old Buddhist priest, and a little child monk called Chinnen. One day, the priest felt a little sick in the stomach, so he called for a doctor. The doctor came and checked the priest's body, and after the checking was over, he said,  
**Doctor(D):** “Do you have Tenshiki?”  
 Now the priest did not know what Tenshiki meant, but he was too proud to say “I don't know what Tenshiki means.” So he goes,  
**Priest(P):** “Uh... did you say Tenshiki??”  
**D:** “Yes. Do you have Tenshiki?”  
**P:** “Tenshiki....., well, I must say that I don't have Tenshiki.”  
**D:** “I see, you don't have Tenshiki. Well, that may be a bit of a problem, but anyways, I will prepare your medicine as such, okay? So please have someone come pick it up at my place later, okay? Well, take care. Bye bye.”  
 And the doctor goes. Now, the priest starts to feel a bit worried because he still doesn't know what Tenshiki means, but it seems to concern his body. So he goes,  
**P:** “Tenshiki, Tenshiki, Tenshiki..... I wonder what it means, Tenshiki. It's surely not in the Buddhist books, but I've already said I don't have Tenshiki. I can't ask the doctor now. It would be embarrassing. Ah, what should I do? Oh, maybe I can use Chinnen. Chinnen! Come here Chinnen! (Clap clap) Chinnen!”  
**Chinnen(C):** “Yes master, did you call me?”  
**P:** “Yes, come here Chinnen, and sit down over here. I have something that I would like to ask you. Do you know where that Tenshiki is?”  
**C:** “Pardon me, master?”  
**P:** “I said, do you know where that Tenshiki is?”  
**C:** “Tenshiki??? Master, what is a Tenshiki?”  
**P:** “Do not answer my question with a question. I'm asking you, do you know where that Tenshiki is?”  
**C:** “Master, I don't know what Tenshiki is.”  
**P:** “You don't know what Tenshiki is? How can you not know what a Tenshiki is. You're a Buddhist monk, you should know these things. I clearly remember telling you what Tenshiki means before.”  
**C:** “I'm sorry, I think I forgot.”  
**P:** “You forgot. You always forget these important things. Well then, if you have forgotten, you will have find out for yourself. Okay? Go to the flower shop across the street and ask them if they have a Tenshiki.”  
**C:** “Okay, and what if they say yes?”

**P:** “Well, if they say yes, then tell them that I need to borrow it for a while.”  
**C:** “Okay, but master, if I'm going to go borrow it, I think I should know what it is.”  
**P:** “Oh be quiet Chinnen. You will know from their response, okay? Well, anyways, hurry up and go!”  
**C:** “Okay master, I'll be going. Huh,... my master's a little bit mean tonight, oh here it is. Hello! Hello! Mr. Flowershop man. Hello!”  
 Flowershop man(F): “Yes yes. Oh! Chinnen. Come here, come here. What are you here for? We have the roses, violets, lilies, everything, what do you want?”  
**C:** “I'm not here for the flowers today. I came to ask you if you have a Tenshiki.”  
**F:** “...What?”  
**C:** “Do you have Tenshiki?”  
**F:** “...Oh...Tempura!”  
**C:** “No no no Tempura. Tenshiki, do you have it?”  
**F:** “Tenshiki? Are you sure you're looking for Tenshiki?”  
**C:** “Yes I'm sure. Do you not know what Tenshiki means?”  
**F:** “Of course I know what Tenshiki means. I was just trying to remember where I put it. Okay? Hold on hold on, I'll ask my wife. Honey, honey, do you know where that Tenshiki is? Tenshiki, no no no Tempura. Tenshiki. What? You don't know what a Tenshiki is? How can you not know what a Tenshiki is. What? Do I know what a Tenshiki is? Of course not. But I can't tell a little kid that I don't know. Okay, okay, I'll tell him something. Chinnen, sorry to keep you waiting. I just remembered that we had two Tenshiki before.”  
**C:** “Tow Tenshiki?”  
**F:** “Tes, but one of them looked really beautiful, so we gave it to our friend as a present to decorate the room.”  
**C:** “I see, to decorate the room. And what about the other one?”  
**F:** “Well, the other one looked really tasty, so we put it in miso soup this morning and ate it.”  
**C:** “You put it in miso soup and ate it!”  
**F:** “Yes, so we're sorry, we used to have two, but now we have none. Please tell your master that we're sorry.”  
**C:** “Okay, well thank you very much anyways. Master, I'm back!”  
**P:** “Oh, that was quick Chinnen. Come in here. So, did they have it?”  
**C:** “Yes, they had two.”  
**P:** “They had two! Did you borrow it?”  
**C:** “Well I tried to borrow it, but they said that one

of them looked really beautiful, so they gave it to their friend as a present to decorate the room.”  
**P:** “I see, to decorate the room. And what about the other one?”  
**C:** “Well, the other one looked really tasty, so they put it in miso soup and ate it.”  
**P:** “They ate it. Okay, so this Tenshiki is something that you can give as a present to decorate the room, and something that you can put in miso soup and eat. I have no idea what this is.”  
**C:** “Master, you know what Tenshiki means right?”  
**P:** “Of course I do.”  
**C:** “Then please tell me!”  
**P:** “Shut up Chinnen. I told you once, and I will never tell it to you again. Okay, well the medicine should be ready at the doctor's place. So go to the doctor's place to pick up the medicine, okay? And when you pick up the medicine, tell the doctor that you were around when he was checking my body, and you heard the word Tenshiki, but you didn't understand what it meant. And you would like to know what it means, okay? Ask this question, so that it is coming out right from your mouth, okay?”  
**C:** “Okay. But master you know what Tenshiki means. Please tell me because it would be embarrassing to ask the doctor.”  
**P:** “Well, that's the whole point Chinnen. If you ask somebody else, you will feel embarrassed, and you will never forget it again. Okay? Anyways, hurry up and go!”  
**C:** “Okay, I'll be going. Wow, my master's becoming meaner and meaner today. Here it is. Hello Doctor! Hello!”  
**D:** “Yes yes, oh Chinnen. Come here, you're here for the medicine right? Okay, we have it prepared. Take this back to your master's place, and tell him to take it with hot water as usual.”  
**C:** “Thank you very much doctor. Oh, I have one thing that I would like to ask you.”  
**D:** “Okay, what would that be?”  
**C:** “Well, I was nearby when you were checking my master's body, and I heard the word Tenshiki, but I didn't understand what it meant. And I would like to know what it means.”  
**D:** “Ah, you would like to know what Tenshiki means. Well well that's a very good thing. It's always a good thing to ask something that you don't know. Well, Tenshiki is not a very important word, but it can be useful sometime. You see, Tenshiki is in other words, gas.”  
**C:** “Gas? What do you mean by gas?”  
**D:** “Well in other words, poopee(糞).”  
**C:** “Poopee? What do you mean by poopee?”

**D:** “Well, in other words, fart.”  
**C:** “Fart? What do you mean by fart?”  
**D:** “Well you must surely know what a fart is.”  
**C:** “Fart? You mean that thing that comes out of your butt???”  
**D:** “It usually comes out of your butt. If it comes out of your mouth, it would be quite painful.”  
**C:** “You mean that smelly thing?”  
**D:** “Well it usually has strong smell. The silent ones are the most dangerous.”  
**C:** “You mean that yellow thing???”  
**D:** “Well I don't know about the color! But you see, Tenshiki is fart or gas.”  
**C:** “Doctor, please don't make fun of me. Please tell me the truth!”  
**D:** “I am telling you the truth. Tenshiki is a very old word that appears in a book called SHOKANRON, and it means fart or gas. You see, what I was checking your master's body, his stomach seemed a bit tight, so I thought maybe he has some gas built up in his bowels. But it would be rude to ask such a wise man ‘Do you fart?’ So I said ‘Do you have Tenshiki?’ Such a wise man should surely know what a Tenshiki is.”  
**C:** “I see. But my master told me to go borrow Tenshiki. That's a little bit strange. But anyways, thank you very much doctor! Wow! I didn't know that Tenshiki means fart or gas. So that means I've been running around trying to borrow fart. That's embarrassing. Wait a minute. That flowershop man said something strange. He said he had two Tenshikis, but one of them looked really beautiful, so he gave it to his friend as a present to decorate the room. I wonder how you decorate the room with a fart. He said something else. He said the other one looked really tasty, so they put it in miso soup and ate it. What a bubbly miso soup! Wait a minute. That flowershop man doesn't know what Tenshiki means. So he was just saying random things to fool me. Oh, that must be it. Wait. My master doesn't know what Tenshiki means as well. So he was trying to use me to find out what it means. Oh, how unfair those adults. So if I go back, he's going to ask me ‘What is Tenshiki?’ And if I tell him that Tenshiki means fart, he's just going to say ‘Yes, that's right, never forgot it again,’ and I'll get scolded. That's not funny. I should tell him something else, and see if he really knows or not. What should I say? Oh, my master likes to drink sake, so I'll say that

Tenshiki means sake. And if he says, ‘Yes, that right!’ then he doesn't know. Okay, I will find out. This will be revenge. Look, he's sitting over there. Master! I'm back!”  
**P:** “Oh Chinnen, come here come here. So, was the medicine ready?”  
**C:** “Yes it was ready. The doctor told you to take it with hot water as usual. I'm going to go boil some water.”  
**P:** “Oh that's fine. You can do it later, okay? So, what did the doctor say?”  
**C:** “Well, the doctor said that it's always a good thing to ask something that you don't know.”  
**P:** “That's good. So what did he say Tenshiki is?”  
**C:** “Well, I now know what it means, and I'm a little bit wiser. Thank you very much for the opportunity.”  
**P:** “Okay. Well that's very good. So, what is Tenshiki?”  
**C:** “Master, you know what Tenshiki means, right?”  
**P:** “Of course I do.”  
**C:** “You know what Tenshiki means, and I know what Tenshiki means, so I don't have to tell you.”  
**P:** “Chinnen, why do you say such a thing? I'm not trying to learn from you, okay? I'm just trying to check if the doctor taught you the right thing. Now, tell me what is Tenshiki?”  
**C:** “Okay, well, Tenshiki means sake.”  
**P:** “Sake? You mean that sake we drink. I see. So, the doctor was touching my stomach when he said ‘Do you have Tenshiki?’ Oh, so he meant, did I have too much sake. Oh, that must be it. Chinnen, didn't I tell you that Tenshiki means sake before? Now, never forget it again. And from now on, when I tell you to bring Tenshiki, remember to bring sake. Okay? You may be dismissed!”  
 And the day is over. The next day, the doctor comes to check the priest's body, and says,  
**D:** “How are you doing sir?”  
**P:** “Oh, I'm feeling much better doctor, thank you very much for the medicine.”  
**D:** “That's very good. Please keep on taking the medicine, and you will be fine in a couple of days.”  
**P:** “Thank you very much doctor. Oh, doctor, I have one thing that I must tell you.”  
**D:** “Yes. What would that be?”  
**P:** “Well, yesterday, when you asked me if I have

Tenshiki, I told you that I don't have Tenshiki, but when I thought about it, I did have some cheap Tenshiki.”  
**D:** “Cheap Tenshiki? Well I'm not sure if there is any expensive Tenshiki, but it's better to do it than not to do it.”  
**P:** “Oh doctor, you seem to be fond of Tenshiki as well.”  
**D:** “No, I'm not fond of Tenshiki, but of course I sometimes do it once in a while.”  
**P:** “Of course you do! I'm sure you exchange it with your wife once in a while.”  
**D:** “No, we do not have that kind of hobby.”  
**P:** “Please do not be embarrassed doctor. Today, I have some Tenshiki that I would like to share with you.”  
**D:** “Please enjoy it by yourself.”  
**P:** “Please be my guest. I have some Tenshiki that I would like to share with you. Chinnen! Chinnen! Bring that Tenshiki. Yes, that bottled Tenshiki in a wooden box.”  
**D:** “Bottled Tenshiki? I wonder how they bottled it.”  
**P:** “Just bring it here. Put it here. What are you giggling at Chinnen? Go back go back. Doctor, this is the Tenshiki that I was talking about. We had it sent from Kyoto.”  
**D:** “From Kyoto!? That's a long distance for a Tenshiki to travel.”  
**P:** “Ha ha ha, but do not worry, this is fresh. Freshly squeezed!”  
**D:** “I don't know if I can survive this.”  
**P:** “Please please be my guest. Please open this box.”  
**D:** “No, I don't think...”  
**P:** “No no no, please I'd like you to taste it, so please open this box.”  
**D:** “Okay, well if you insist, then I will open this box. (Opens the box) Oh, this is strange. This seems like a nice bottle of sake.”  
**P:** “Indeed, it's a nice bottle of Tenshiki!”  
**D:** “That is strange. In the world of medicine, Tenshiki means fart or gas, but in the world of temple, it seems to mean sake. Is that so?”  
**P:** “Fart? Gas? Chinnen!! Chinnen you lied to me! Why did you do this to me!”  
**C:** “Well, I thought I'd embarrass you a little bit, so that you would never forget it again.”  
 ★poopeeは存在しない言葉だが分かりやすくするため音優先で入れた造語。  
 出典:立川志の春「誰でも笑える英語落語」新潮社

て、適当なことを教える。和尚にそのまま伝えると、今度は薬ができている頃だから医者のところへ取りに行ったついでに「転失気」が何であるのか聞いてこいと、珍念は和尚が知っているなら教えてほしいという、和尚は他人に聞いて恥ずかしい思いをしないと、珍念は、「転失気」がおならであることを医者から聞き出す。ここで和尚が「転失気」を知らないことを悟った珍念は、寺に帰って「「転失気」とは酒のことです」と嘘を教える。医者が再び寺に問診に訪れた

際、和尚は「京都から取り寄せた桐箱に入った『転失気』があるので、差し上げたい」というと、医者も驚きながらも開けてみると、よい酒が入っている。変に思った医者が「寺方では酒のことを転失気と申すのか」と尋ねる。こうして和尚は珍念に一杯食わされたことを知る。和尚が「なぜ嘘をついたのか」と珍念に聞くと、「少し恥ずかしい思いをすると、二度と忘れることはありませんから」と答えた。



発音はネイティブに寄せていて、リズムは日本語のまま、という英語落語もいいですね。日本文化の担い手として、どんどん世界に広めてください!



この「転失気」は海外の人に必ずウケる古典落語です。「そんなに面白い?」というくらい笑ってくれます。その度にウケる海外に移住したい!と心底思うのです。



革新的英語教育で「英語脳」をつくる

# LIBERTY ENGLISH ACADEMY

Photo TONY TANIUCHI Text Junko Chiba

## 藤川メソッドグラマーテーブルの秘密

「中学、高校、大学と10年以上習い続けているのに、なかなか英語が身につかない」と悩む日本人は多い。それはなぜなのか。リバティー イングリッシュ アカデミーは、代表の藤川恭宏氏がその根本原因にアプローチして開発した「藤川メソッドグラマーテーブル」と呼ばれる革命的教育方法を提供する英語学校だ。「英語の中心・核は Verb にある」という基本認識に立つもので、これまでの不完全な日本人英語から決別し、新たに教養ある英米人と同じ完璧な「英語脳」を最短で構築するという。

エリート官僚、ビジネスマン、経営者、医師、弁護士等、さらには将来を担うヤングエリートたちを対象に、この英語指導を続けること20年以上。皆、「藤川メソッドグラマーテーブル」を軸に“完璧な英語”をしっかりと身に付けた上でTOEIC900、TOEFL100、英検1級など、高い目標を達成している。ヤングエリートに至っては国内では、東大、早慶にまた、海外ではハーバード、イエール、コロンビア大学などのアイビーリーグ校への合格を確実にしている。

加えて、海外留学を目指す人たちの学校選びから卒業に至るまでをトータルにサポートするほか、メンタル面でグローバルエリートへの道を開く「成功するためのコーチング」も行っている。

藤川氏のミッションは「日本を担うより多くの日本人に、最短で完璧な英語をマスターしてもらい、真のグローバルエリートとして国際舞台で縦横無尽に活躍してもらおうこと」なのだ。